

## 学会大会課題研究の登壇者募集

### 課題研究活動委員会

本年度の課題研究は、新たな試みとして2022年より実施されている公募型・推薦型の併用により課題研究の登壇者を募集します。課題研究活動委員会で選定した下記の課題について、会員からの自薦での登壇者の公募を行います。皆さんにとって関心が高い課題について、研究実績や教育実践をお持ちの方を選定して、学会活動を活性化していきたいと思っています。多くの会員の応募を期待しています。

### 課題研究のテーマ：「多様性を活かす初年次教育」

#### 1. 問題の所在と背景

一昨年、昨年とウィズコロナ、ポストコロナの初年次教育というテーマで、対面式の教育を中等教育段階で受ける機会が少なかった初年次生もしくは大学入学後に対面式授業よりもオンライン授業がメインであった初年次生を想定して、どのようなプログラムの工夫を行い、不安を緩和して、移行期を円滑に支援するかといった視点から課題研究を設定してきた。特に2年目では、ポストコロナの初年次教育というテーマが示唆しているように、コロナ禍を経て、大学側、教員側、そして学生が経験したこと、すなわち、オンラインが中心となった状況において、どれだけ、従来からの初年次教育に求められていた機能を果たし、新入生を導いているかについての研究やグッドプラクティス、オンライン・テクノロジーやDXの発達が初年次教育プログラムにいかなる影響を及ぼしているのかといった視点を組み入れて課題研究を構成した。

2024年度には、こうしたオンライン・テクノロジーの進化、DX化、AIの進展もあるなかで、現在の学生、特に初年次生が直面している問題や初年次生の特徴は何かということ課題研究活動委員会では、議論をした。その過程で、オンラインの経験も含めて、高校での探究学習の経験や高校自体での探究学習に注力する温度差、総合入試などこれまで以上の入試の多様化が進み、初年次生の多様性、送り出し先である高校の多様性、受け入れ先である大学の多様性といった「多様性」がキーワードになるのではということになった。加えて、初年次教育学会が発足して以来、「自己肯定感の醸成」は初年次教育の重要なテーマであったが、この自己肯定感の醸成を多様性のある初年次生、多様な高校、多様な大学という視点からどうとらえ、初年次教育を構築していくかを大きなテーマとして提示することにした。

課題研究委員会では、本方式により、グッドプラクティスだけでなく、研究としての蓄積にもなるような内容を深めていくことを目的としている。過去2年間で、6つの取組が選定され、大会シンポジウムで報告され、学会誌に掲載されるという成果につながっている。

今後の学会活動を担っていく人材を発掘するという点に鑑みて、本テーマやサブテーマに関連して研究を行っている、あるいは実践を行っている話題提供者を公募するという形で発掘することにした。

なお、大テーマは「多様性を活かす初年次教育」であるが、サブテーマとして以下の4つを立てている。サブテーマは必ずしも1つのみではなく、複数にまたがる場合も可とし、発表には、事例（実践）に分析的な観点も含まれていることを要件としたい。

#### サブテーマ

- (1) 自己肯定感
- (2) 探究学習の経験
- (3) 多様な入試、入学前教育、高大接続
- (4) 帰属意識、愛校心

## 2. 選考の方法・スケジュール

この選考にあたっては、皆さまの実践や研究成果から、これからの初年次教育や大学教育の在り方を考えつつ、課題発見から課題解決につなげることを目指している。

課題意識の明確性、実践実績または分析の説得力、発展性、汎用性、などの観点から審査を行う。

募集人員：3名程度

### (1) 書類選考

800～1000字程度に、研究報告の概要についてまとめてもらう。初年次教育学会の課題研究シンポジウム用の書式を準用する。

① タイトル、②サブテーマのいずれに該当するか（複数可）、③報告内容（内容、方法）、④氏名、所属を記載

送付先：学会事務局 jafye-office@bunken.co.jp

締切：5月7日17時

(2) 審査委員会で書類選考通過者に面談（Zoom）5月12日～15日頃を予定

課題研究委員会で選考結果決定・通知：5月中旬以降を予定

登壇者の審査・調整を行い、サブテーマ、登壇者確定

(3) 登壇者打合せ：6月下旬以降を予定

(4) 公募申請にあたっての留意事項：

- ・初年次教育学会の個人会員もしくは機関会員であること
- ・大会2日間の両日に出席が可能であること。課題研究シンポジウムが初日あるいは二日目のいずれになるかが流動的である場合があるため
- ・初年次教育学会による教育実践賞への応募申請と本課題研究への重複申請は妨げない

## 3. 審査担当者

課題研究活動委員会委員：山田礼子、笹金光徳、本田康二郎